

平成27年度第1回さぬき市総合教育会議議事録

1 開催日時	平成27年5月26日(火) 開会 午後2時00分 閉会 午後3時10分		
2 場所	さぬき市教育委員会会議室		
3 出席者		市長	大山 茂樹
		教育委員会	細川 哲士 徳田 二三男 日向 和加子 得丸 慶子 岡 裕子 安藤 正倫
		欠席者	なし
	事務局	総務部長	穴吹 靖昭
		教育部長	和田 浩二
		教育総務課長	間島 憲仁
		教育総務課副主幹	富田 和希
	その他説明等のため出席した者	なし	
4 会議に付した協議・調整事項	(1) 会議の運営について (2) 教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱について		
5 特記事項	なし		
6 会議内容	開会		
教育部長	定刻がまいりましたので、平成27年度第1回さぬき市総合教育会議を開会したいと思います。開会に当たり、まずは市長から御挨拶をお願いします。		
市長挨拶			
市長	(挨拶)		
教育委員会委員長挨拶			
委員長	(挨拶)		
総合教育会議について			
教育部長	この会議が初めて開催されることから、確認のため、改めて総合教育会議の趣旨及び協議する内容等について、事務局から説明をします。		
事務局	(法改正の概要、総合教育会議の趣旨等について、資料に基づき説明した。)		
教育部長	ただ今の説明に関し、何か質問等がありますか。		
市長	資料中「4つのポイント」とあるうち、①と②について、さぬき市が法改正		

	の経過措置により運用されていることと関連させて補足説明してください。
事務局	今回の法改正により従前の教育委員長と教育長とが一本化され、新「教育長」が設置されることとなりましたが、経過措置として、改正法施行時点において改正前の法律に基づく教育長が現に在職する場合には、教育長の委員としての任期中に限り引き続き在職することができるとともに、教育委員長制度も存続することになっており、さぬき市では、現の教育長の委員としての任期である平成28年5月21日まで、これまでの委員長と教育長とが両方存在する体制で教育委員会が継続されることになっています。
協議・調整事項	
教育部長	協議・調整事項について、ここからの議事進行は、市長をお願いします。
市長	では、総合教育会議は、首長が招集し、運営するとされていることから、進めさせていただきます。 まず、先の資料の中に、協議すべきでない事項という項目がありましたが、ただ、話題に触れることが即「協議」に当たるというのではなく、意見は広く頂きたいと思います。会議に当たっては肩肘を張らず、言って良いこと、言ってはいけないことといったことにあまり意識せず、基本的には何でも話し合える総合教育会議を目指したいので、遠慮なく意見を言ってほしいと思います。また、権限外のことについても、互いに考えを述べ、話をするという姿勢でいきたいと思っています。
(1) 会議の運営について	
市長	総合教育会議は、初めての開催になるので、その運営に際し何かより所が必要ということで、会議運営規程の案を作成しました。 案について、事務局は簡単に説明してください。
事務局	(さぬき市総合教育会議運営規程(案)について説明した。)
市長	この規程は、総合教育会議の内規として定めたいと思っています。 また、会議を公開とし、その議事録も公表することとしています。その議事録の内容については、一字一句同じものではなく、発言の要旨としたいと考えています。さらに、発言者の表記についても、形式よりも中身が充実した会議にしたいと考え、忌たんのない意見をお願いしたいので、「委員」とのみ表記し、「誰が言ったか」という発言の属人性よりも「どのような内容の発言があったか」が分かるような議事録になると理解していただければと思います。 この案について、何か御意見はありませんか。
教育委員	運営規程については、特に意見はありません。
市長	では、本日5月26日から、この運営規程に基づき会議を運営することに御異議ありませんか。
教育委員	(異議なし)
市長	ありがとうございました。
(2) 教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱について	

<p>市長</p>	<p>今回の制度改正の大きい柱の一つとして、教育に関する「大綱」を定めることがあります。</p> <p>市長、教育委員、市民にとって、「さぬき市における教育の基本的な原則はこうですよ」という共通認識がないと議論がかみ合わないので、この大綱は、非常に大事なものだとして認識しています。ただ、「大綱」というと、大げさに捉え、言葉の使い方や「てにをは」、構成といった形にとらわれがちですが、それよりも中身にこだわり、その書いたことが実現できるというようなものにしたと思っています。</p> <p>このようなことから、教育大綱の策定方針について、資料にまとめていますので、事務局は説明してください。</p>
<p>事務局</p>	<p>(教育大綱の策定趣旨、大綱の内容、スケジュール案について説明した。)</p>
<p>市長</p>	<p>教育大綱については、資料にもあるとおり「市長と教育委員会が協議、調整を尽くし」とあります。これ以上はできないというところまで協議をし、調整をするという趣旨ですので、是非とも御協力をお願いします。</p> <p>また、対象期間については、法律の定めがないところですが、市教育振興基本計画や市総合計画など他の計画との整合性を図る必要があることや、市長の任期との関係を含め、必要に応じて、例え1年後であっても、見直すべきとの議論があれば、柔軟に対応していきたいと考えています。</p> <p>また、内容については、初めての会議であるので、今回は具体的な大綱の案についての意見を聴くということまでは予定していません。</p> <p>スケジュール案では、7月に大綱の骨子を協議することとしており、それまでに、今日の議論を踏まえ、市教育振興基本計画に定める方針等に対応する国の教育振興計画や市総合計画の項目を比較するとともに、この場での意見等がいずれに属し、又は新たなものであるか対比したものを示できればと考えています。</p> <p>そこで、本日は、全くの白紙の状態、これは大綱に入れたい、入れるべきといった意見をお伺いできればと思いますが、いかがでしょうか。</p>
<p>教育委員</p>	<p>市教育振興基本計画も市総合計画も書かれている内容はおおむね同じですが、市総合計画は、学校教育や生涯学習といった領域ごとに分かれ、市教育振興基本計画は、それらがクロスしているという書き方の違いがあります。</p> <p>大綱については、これらの内容を網羅的に取り上げるのではなく、その中から更にこれといったポイントを絞ったものすればよいのではないかと思います。</p>
<p>市長</p>	<p>条立てとするとか、総論と各論に分けるといった大綱の形式的なことについては、まだイメージがあるわけではなく、会議で出たものを集約していくものですが、とはいえ、形にしていくに当たっては、大きい共通認識も必要であり、そのために参考として他市の例等も紹介することもあります。冒頭にも述べたように、形よりも中身にこだわりたいと思っています。ただ今の委員の御意見に関しては、骨子の議論をする際にお示しする骨子案の作成に参考とさせていただきます。</p>
<p>教育委員</p>	<p>保護者としての視点に立てば、さぬき市で子育てをしたい、自分の子どもを</p>

	<p>育てたいと思うような教育環境にあれば、もっと人が集まり、子どもも増え、さぬき市で働きたいと思う人も増えるなど、さぬき市自体が活発になるのではないかと思うので、教育は非常に重要なテーマだと思います。</p> <p>また、さぬき市ですずっと暮らしてもらうことも大事かもしれませんが、さぬき市で教育を受けて都会や海外に出て行った人が、また何かの形でさぬき市に戻ってきたり、さぬき市に何かしたいと思わせたり、そんな循環が生まれるような教育が理想だと思います。</p> <p>そのために、家庭の教育や地域でのサポートをもっと充実させることができるような大綱になればよいと思います。</p>
市長	<p>同感に思う部分もあり、今回の「教育」に関する議論が、教育委員会だけの教育というのではもったいないと思っています。「教育」は、市民にとっても関心があることです。単に子どもの知識を増やすとか、いろいろな指導をするというだけでなく、そのことが、今後のさぬき市がどのような地域になっていくかということと非常に関係があると思います。地方創生についていろいろと考えているところですが、人材育成や雇用の場の創出などの「まちづくり」も大事ですが、「意識」というものも大事だと思っています。例えば、外国に行って羽ばたきたい・東京に行って一旗揚げたいという人も大事ですが、それと同じくらい地元に残って頑張るという人も大事だと思っています。偏差値の高い順に外国・都会・地方といった、あたかも偏差値という物差しで自分たちの序列が決まっているかのような誤解がありますが、その「意識」を払拭させるには、例えば、生まれてから18年間の家庭環境、保育・教育機関や地域・友人からどのような影響を受けるかが大きいと思います。そこでの影響が良いものであれば、さぬき市に残る者が増えたり、外国や都会に出て活躍する者も、振り返って原点であるさぬき市を思い出し、更には戻ろうとしたりといった良い循環になると思います。これを作るためにも、この度の「教育」に関する議論では、大学進学がどうといった単に学校教育での学力の話だけでなく、例えば、今までテストで10点しか取れなかった子どもが11点取れるようになり、それは平均点が50点とすれば、その子は平均点のアップにはほとんど貢献はしていないけれど、そのような子どもに対して私たちは応援するという漠然ながら考えています。</p> <p>さらに、「教育」というものを、地方創生の1つの核に是非したいと考えており、この総合教育会議での議論の内容も取り入れていきたいとも考えています。</p>
教育委員	<p>市教育振興基本計画と市総合計画とを見比べたときに、どちらにも総合的な放課後対策という項目がありますが、これについては、教育委員会部局と市長部局がそれぞれ別に施策を展開しており、調整することが課題であると思います。子育て支援制度というのは、幼稚園と保育所との関係についても同じようなことが言え、教育総合会議や大綱策定に当たっての1つの大きな論点になるのではないかと思います。</p>
市長	<p>私は、論点というよりも争点になるのではないかと考えています。</p> <p>縦割りというか、専門家が子どもに良かれと思ってサービスを考えるが、そ</p>

	<p>これはあくまで提供する側で考えたことであって、今の地域・日本にとって必要なのは、サービスを受ける側から考えたときに、その人にとって一番良いサービスを選べるような余地を残すようなことだと思います。</p> <p>国にとって有用な人間というのは、ある一定のイメージがあると思うが、その国がいう良い人間というものが、その人にとっての良い人間とイコールであるかといえばそうではないこともあり、それでも良いと思うし、そういったズレをも包み込むような社会であってほしいと思います。例えば、学校の運動会で、先生が右に走りなさいというときに、1人だけ左に走る子がいると先生は困ると思うが、社会全体で見たときに、そういう人が存在できるということが、社会にとって健全なことだと思うし、そういうことが包み込めるかどうかがこの日本に問われているのではないかと思います。</p> <p>そのためのキーワードが「多様性」です。「多様性」を別の言い方をすると「バラバラ」です。バラバラとは、効率が悪いということです。今の風潮では、効率が悪いというのは「悪」とされています。例えば、最近、コンパクトシティというのをよく聞きますが、財政上の都合から、社会基盤を特定の地域にまとめ、人口を集中させると効率的で良いと言われているものです。効率的というのは非常に大事な要素ではありますが、しかしながら、人間の一生が「効率」だけで幸せになれるのであれば、人間はもっと幸せになっているはずだと思います。</p> <p>これらのことが直ちに教育大綱に取り入れられるかどうかについては、少々難しい部分もあるかもしれませんが、「多様性」を持った子どもが居られる「まち」を、地域づくりを進めていきたいと考えています。</p> <p>そういう意味で「争点」として議論が深められたらと思っています。</p>
<p>教育委員</p>	<p>さぬき市の教育、さぬき市教育委員会は一体誰のためにあるのかと自問した時に、市教育振興基本計画にもあるとおり、全てにわたって「人づくり」に尽きると思います。その場合、さぬき市で生まれ、教育を受け、働き、さぬき市で一生を過ごす人だけでなく、高校や大学あるいは就職により市外県外から来て、さぬき市を第2のふるさととして過ごす人たちのためにも教育委員会は在るべきで、住んでいる以外の「さぬき市に居る」人が、人として向上していけるための様々なことを提供できるような教育委員会で在りたいと思います。</p> <p>また、市全体でも共有できれば良いと思うので、そのようなことが教育大綱の中にも盛り込めたらと思います。</p>
<p>市長</p>	<p>単に学校などの中だけの教育委員会ではなく、地域全体の人にとっても教育委員会として果たすべき役割があり、それを果たすことが地域の発展や教育の振興につながるということはよく分かりました。</p> <p>また、その中でも特にこれを大事にしたいという、何かもう少し具体的なものはありますか。</p>
<p>教育委員</p>	<p>他の市町でも取り組んでいるというのではなく、さぬき市ならではの、さぬき市にしかない教育というものが需要ではないかと思っています。</p> <p>例えば、スポーツであれば、何か特定のスポーツ種目を推奨するとか、現在、力を入れて取り組んでいる「読書活動」については、もっと子どもからお</p>

	<p>年寄りまでが読書に親しめるような図書館施設の環境整備が必要ではないかと思えます。</p>
市長	<p>分かりました。これから議論を進めていきましょう。</p>
教育委員	<p>他の市町にはない「さぬき市ではこういう教育ができますよ」という特色を前面に出すことができるような大綱になればよいと思えます。</p> <p>現在は、学校の統合により施設が整備され、バリアフリー化が図られ、特別支援教育も充実しつつあります。</p> <p>また、平成25年度に実施された「さぬき市子ども未来会議」において、子どもたちから「もっとさぬき市の良いところをPRしてほしい」という意見があったと聞いています。</p> <p>そこで、さぬき市は「お接待の心があるまち」ともされていることから、人にやさしく、他人をいたわる心を育てるといったことを特色とした教育を展開していけば良いのではと思えます。</p>
市長	<p>お話のとおりだと思います。大綱にどのように表現していくかについては、これから考えたいと思えます。</p> <p>ただ、みんなが共通認識を持って、できるだけ現実的で、具体的なアプローチの仕方を大綱に入れるようにすると、市民にも分かりやすいし、子どもたちにも分かりやすく、実現により近くなると思えます。</p> <p>立派な理想を掲げても、そこへ行く道が示されておらず頂上までたどり着けないということはよく聞く話で、例えば昨日よりも今日、今日よりも明日、みんなが目標に1センチ近付いたなと思えるようなことを、大綱には具体的なものとして表現できれば良いと思えます。</p>
教育長	<p>これまでの意見は、「ひとづくり」と「地域づくり」に集約されるように思えます。</p> <p>「教育」には、「文化の伝承」と「文化づくり」という2面があると思えます。そのいずれの面においても、各年齢層・ライフステージに応じたような取組ができるかが問われていると思えます。また、学校教育ばかりが焦点化されがちですが、いきいきと生きていくためには、成人教育や家庭教育も重要です。</p> <p>このような年齢層や対象者層、分野などを方向ごとに分類するなどして、その分類されたものの中からより重点化を図ることが良いと思えます。</p> <p>その根底には、特色あるさぬき市ならではの教育方針が必要で、そのことが、ひいては先の話にもあったように、さぬき市で子どもを育てたいという親の増加にもつながると思えます。</p>
市長	<p>現実のものとして形にするということは難しいことで、例えば、みんなで相談しながら茶わんを作るとなったときに、ろくろを回せど、時に手が滑ったり、ゆがんだりして思ったようなものがないことがあります。それでもろくろを回さなければ完成品はできないので、そういう前向きな失敗は恐れずに取り組んでいきたいと思っています。</p> <p>これまでの議論の中で、例えば、さぬき市の学校で、文科省のカリキュラム</p>

	<p>以外の時間を年間に1時間でも入れるとすれば、何か特別な手続や条件があるのですか。いくらかは、地方で決められるのですか。</p>
教育長	<p>ある程度の裁量はあります。</p>
市長	<p>例えば、さぬき市は海に面しているので、さぬき市の子どもは全員、いずれかの年代で必ず一度はカヌーにチャレンジするとか、種目は何でも良いですが、とにかく全員が共通の何かにチャレンジしたらどうかと思っています。その際、全員が良かったとはならなくても、本物を見たり、本物に触れたりした者の中で、1人でも心に響き、その道に進み、日本と言わず世界の中でも尊敬される人材が出てくることがあるので、そのような経験について、さぬき市であれば何なのかと考えたりしています。例えば、古墳とすれば、4世紀・5世紀に頼りない舟に乗って命懸けで畿内からやって来て、ここで1つの文化をつくったということを経験することができる子どもがいたり、さぬき市の子どもは、古代のことを聞けば一通りの意見が言えたりするというのも良いかもしれません。</p> <p>ともかく、保護者を始め地域みんなが合意できる独自のものを、年間1時間だけでも取り入れて、地域の絶対的な発展につながる教育というものが実施できれば良いと思います。</p> <p>詳細については、次回の会議の中で、具体化していければと思っています。大綱については、他にもまだまだ意見があると思いますが、次回において、ろくろを回していただき、その中で、もっと意見を伺いたいと思います。</p> <p>あまり残された時間はありませんが、大綱も含め、日頃教育委員や一市民として教育に関し感じていること、考えていることがあればお願いします。</p>
教育委員	<p>これまでの議論に共通するのは、さぬき市を愛する、さぬき市で育って良かったと感じる子どもを育てたいという考えであるので、いわゆる「ふるさと教育」を大事にしたいと思っています。その中で、古墳やへんろ道を学習する機会を設け、特別な1時間としたらよいのではと思います。例えば、旧鶴羽小学校を文化財ビジターセンターとして整備し、そこに訪れ、古墳に関する学習を行ったり、前山のへんろ資料館を訪れ、へんろ文化を学習したりすることを通して、ふるさとを愛する子どもを育てていければと思います。</p>
市長	<p>例えば、東京に行っている徳島の子どもは全員阿波踊りが上手です。それはなぜかという、学校で節目節目に踊りを教えているとのこと。馴染みのない土地でも、徳島出身ということで阿波踊りを踊ることで溶け込めたということがあるそうです。</p> <p>何かそれができるから得する損するといった低いレベルの話ではなくて、人間の存在意義であるとかアイデンティティを感じられるものがあれば、例えば、上がり3か寺のことなら、さぬき市の子どもは大人顔負けの知識を持っているとか、そういったものも面白いのではないかと思うし、合意が得られるそういったことはやってみる価値があるのではと思います。あるいは、さぬき市には不登校が一人もいないということ。フォローが非常に早くて大事に至らないということですが、大事に至らなかったものの把握は難しいです。放っておけば大事に発展したであろうことが関係者の努力でそうならなかったというこ</p>

	<p>とは形として残ってきません。予防した数というのは分からないものです。しかしながら、保護者や地元の方はちゃんと知っています。それが一部の学校ではなく、市内全ての学校の保護者等が、勉強もするけど、そういう面でのフォローが他とは違うなということが可能なのであれば、費用が掛かってもやるべきことの一つになる可能性があると思います。しかし、残念ながら、私には具体的な方法が分からないのです。少しでも何かこういったことへの現実的な足掛かりが見付かるようなことが今後の議論の中でできればと思います。</p>
市長	<p>それでは、時間も限られていることから、この辺りで進行を事務局に返します。</p>
閉 会	
教育部長	<p>以上で、平成27年度第1回さぬき市総合教育会議を閉会します。</p>